

## 恐竜博物館(1/2)

# 世界に羽ばたく恐竜博物館

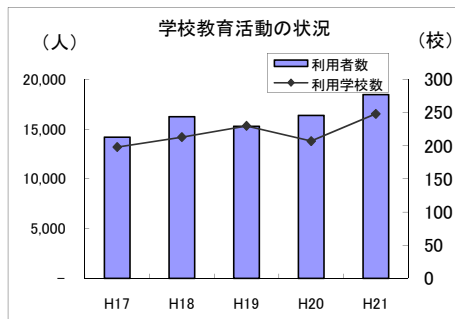
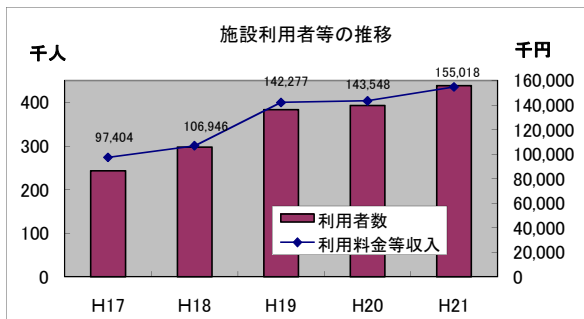
所在地	勝山市村岡町寺尾51-11		
設置年月日	平成12年7月14日		
施設の種類	博物館	施設管理主体	県
設置の目的	恐竜を中心とする古生物および地球の歴史に関する資料の収集、保管、展示、研究等を行い、もって県民の文化の向上に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造、地上3階、地下1階、延15,086㎡ 展示室・講堂・ダイノラボ・ダイノシアター・化石クリーニング室・恐竜骨格40体以上		
職員数	職員15人、非常勤嘱託3人 計18人		

### 利用状況等

	H17	H18	H19	H20	H21
利用者数(人)	243,006	297,904	383,423	392,727	438,895

### 利用者負担(利用料金)等

入館料	大人	500円
	高校・大学生	400円
	小・中学生	250円



利用状況の推移	<p>平成13年度から平成17年度の入館者は、毎年度約25万人で推移していました。</p> <p>平成18年度は、特別展が前年度を上回る入館実績(約86千人)となったほか、県内外でのPRや企業との連携に取り組んだ結果、年間来館者数は対前年比約23%増の約298千人となりました。</p> <p>平成19年度は、特別展が約127千人の入館実績となったほか、第三次恐竜化石発掘調査の成果がタイムリーに公表できたことや、また、県内外でのPRや企業との連携により、年間来館者は対前年比約29%増の約383千人となりました。</p> <p>平成20年度は、特別展が約125千人の入館実績となったほか、第三次発掘調査における新たな成果の公表や県内外でのPR活動および企業との連携を積極的にに行った結果、年間来館者は対前年比約3%増の約393千人となりました。</p> <p>平成21年度は、特別展「恐竜の暮らした森 ～恐竜は花を見たか?～」が約125千人の入館実績となったほか、観光営業部の新設に伴う積極的な県内外でのPR活動および企業との連携や、開館10周年に向けて動く古代天井や動く恐竜ロボットの設置など博物館の魅力度アップを行った結果、年間来館者は対前年度比約12%増の約439千人と過去最高(恐竜エキスポを開催した平成12年度除く。)を記録しました。</p>
---------	---

### 施設の特徴

県が勝山市内で実施した恐竜化石発掘調査では、数多くの標本が発見され、恐竜が生息した当時は多くの恐竜の群れが生活していたことが明らかになりました。

恐竜博物館は、そのような恐竜に関する資料を展示した国内最大級の地質・古生物学博物館であり、リアルで魅力的な館内の展示を通じて、子どもから大人までの幅広い世代に夢とロマンを提供しています。

県内外から多くの入館者が訪れ、地元勝山市および本県の観光振興やイメージアップに貢献しています。

### 教育普及事業

生涯教育への意欲の高まりや、大人から子どもまでの幅広い層の多彩なニーズに対応できるよう、恐竜に関する最新の研究や古生物学の知識をわかりやすく普及する各種セミナーや講座を開催しています。

### 恐竜ブランド発信事業

福井が誇る「福井県立恐竜博物館」および「フクイラプトル」などの研究成果を本県のブランドとして広く全国に発信するため、海外との連携や効果的なPR活動を行っています。

### 「恐竜渓谷(ダイノソーパーレー)」構想推進事業

恐竜博物館や恐竜化石発掘現場までの九頭竜川の上、中流域を「恐竜渓谷(ダイノソーパーレー)」としてブランド化するため、恐竜モニュメントの設置などを行っています。

### 事業実績

瀋陽師範大学古生物研究所(中国)と連携し、特別展「恐竜のくらしの森 ～恐竜は花を見たか?～」を、夏休み期間を中心に92日間開催しました。

また、従来の教育普及事業を体系的にした「恐竜博物館カレッジ」とし、子どもから大人までの幅広い世代のニーズに応じたセミナー、自然教室等わかりやすい古生物学の教育普及事業を50回開催し、児童生徒、親子等約1,600名が受講しました。

広報活動としては、GW期間中アオッサに恐竜博物館のサテライトとして特別展示を実施するとともに、7～8月には映画「ナイトミュージアム2」公開記念イベントの一環として、大阪「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)」、「ユニバーサルポート」での「フクイラプトル」の全身骨格の複製など約10点の展示を行ったほか、阪急バス車内および各営業所内での特別展ポスターの掲示など、積極的にPR活動を展開しました。

また、県内外の学校に恐竜博物館の利用を呼びかけるとともに、県内14校、県外11校において出前授業を実施しました。

さらに、企業との連携を進め、すでに実施しているコンビニエンスストアでの観覧券取り扱い先を1社から4社としました。

次に、にぎわう博物館の実現に向け、21年5月から1年間何でも入館できる「年間パスポート」を発行し、3月末までに約1,500人に発行するとともに、観覧料を割引く「リピーター割引券」や「くちコミ割引券」を発行し、親子連れを中心に年度中約6,400人が訪れました。

10月には博物館の展示品の目玉として世界最大級の草食恐竜「カマラサウルス」の骨格化石を購入するとともに、来館者に対して、化石のクリーニング体験を実施しています。

また、開館10周年に向けて1月には地下1階ダイノストリートの天井部を改修し映像を投影する「動く古代天井」の整備、2月には老朽化したダイノシアター(対面スクリーン)をリニューアル、3月には恐竜ロボット「フクイラプトル・キタダニエシス」を展示、さらに恐竜映画の上映開始など博物館の魅力アップに努めました。

研究面では、7月から9月にかけて68日間、勝山市北谷町杉山地区において第三次恐竜化石発掘調査を行い、フクイサウルスの右歯骨(下あごの骨)やイグアノドン類の尾椎等、約1,200点の脊椎動物化石を発掘しました。

さらに、国際的な恐竜研究の拠点化と恐竜研究ネットワークの形成を目指し、6月には中国・浙江自然博物館と11～12月にはタイ・珪化木鉱物資源博物館と共同で恐竜化石発掘調査を行うとともに、3月にはカーネギー自然史博物館(アメリカ)と姉妹提携の調印を行いました。

そのほか、NPO法人福井恐竜博物館後援会と連携し、東京や大阪市など県外3か所において、出前PR展を開催しました。

# 恐竜博物館(2/2)

## 行政コスト計算書(平成21年度) (単位 千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	154,929	15.5%	95.0%
	退職給与引当金繰入	0	0.0%	0.0%
	賞与引当金繰入	7,639	0.8%	100.0%
	計	162,568	16.3%	95.1%
物にかかるコスト	物件費	364,068	36.5%	95.4%
	維持補修費	92,555	9.3%	1311.7%
	減価償却費	257,121	25.8%	100.6%
	計	713,744	71.6%	110.8%
その他	支払利息	117,802	11.8%	88.6%
	その他	3,232	0.3%	72.1%
	計	121,034	12.1%	88.1%
合計		997,346	100.0%	104.7%
収入	利用料等収入	151,926	15.2%	108.6%
	一般財源	845,420	84.8%	104.0%

## バランスシート(平成22年3月31日現在) (単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	12,263,053	101.4%	固定負債	5,882,252	90.1%
うち建物	10,378,428	97.6%	うち起債残高	5,773,234	89.8%
うち化石標本	1,700,846	126.9%	うち退職手当引当金	109,018	103.4%
投資等	0	-	流動負債	659,803	96.1%
流動資産	0	-	純資産	5,720,998	117.5%
計	12,263,053	101.4%	計	12,263,053	101.4%

## 主な指標 (単位: %, 円/人)

	H21	H20	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	15,150	14,879	101.8
県民1人あたり将来負担額	7,267	8,039	90.4
世代間負担率	46.7	40.3	115.8

**バランスシート、行政コスト計算書の特徴**

施設の設置が平成12年度と新しいため、建物が資産の9割を占めるほか、建設に伴うコスト負担(減価償却費や公債費)の割合が高くなっています。  
また、施設の建設には約112億円の起債借入を行っており、県民1人あたり将来負担額が大きくなっています。

収入面では、入館者数の増加により利用料等収入が前年比8.6%増加しました。  
支出面では経費の削減に努め、物件費が前年比4.6%減少しましたが、開館10周年を迎え施設の改修を行ったため、維持補修費が大幅に増加しました。  
この結果、県民1人あたりのコスト負担は、前年比4.5%の増加となりました。

**施設の目的上、管理運営上、主要な事業**

恐竜研究の最新成果を展示するとともに、毎年テーマを定め、海外からの化石を初めとした貴重な標本を一同に展示する特別展を開催しています。  
【H22予算額: 約78百万円】

白亜紀前期の手取層群の総合的な古環境の解明と復元を行うため、平成19年度から第3次恐竜化石発掘調査を行っています。  
【H22予算額: 約28百万円】

東アジアにおける恐竜研究の拠点化と恐竜ブランドを確立するため、タイなど諸外国との共同による恐竜化石発掘調査を行うとともに、波及効果の高い首都圏を中心としたPR活動を進めます。  
【H22予算額: 約25百万円】

**今後の課題**

入館者数は増加していますが、新規入館者の獲得およびリピーターを確保するため、恐竜化石発掘調査等の調査研究の推進や展示内容の充実、さらなるPR活動の実施などが必要となっています。

**今後の事業方針 取組み内容**

世界に誇れる博物館の実現を図るため、東アジアにおける恐竜研究の拠点化を目指すとともに本県の恐竜ブランドを確立させるため、多くの入館者でにぎわう博物館づくりを目指します。

<東アジアにおける恐竜研究の拠点化>

- ・白亜紀前期の手取層群の総合的な古環境の解明と復元を行うため、第3次恐竜化石発掘調査を行います。
- ・国際的な恐竜研究拠点化を目指すため、中国、タイなど諸外国との共同による恐竜化石発掘調査を行います。
- ・海外および国内の学術研究機関と連携し、展示の連携や研究者の交流を行います。

<にぎわう博物館づくり>

- ・[魅力的で多彩なメニュー、サービスの提供]
- ・[展示内容の充実や魅力的なテーマに沿った特別展を開催していきます。]
- ・[九頭竜川流域一体での魅力の創出]
- ・[「ふくい恐竜渓谷」<野外博物館>(仮称)の整備に向けて取り組むとともに、認定された「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」の地質遺産に触れて楽しめるような活動を行います。]
- ・[積極的な広報、宣伝の展開]
- ・波及効果の高い首都圏のほか、入館者が多い関西・中京地域でPR活動を積極的に進めていきます。
- ・企業と連携して、恐竜博物館を核とした、または題材としたツアーの企画や商品の開発を働きかけていきます。
- ・年間パスポートなどお徳な入館券の発行により、リピーターの確保をめざします。

